【提出様式】　令和６年度　豊島区立学校　学校評価　自己評価表

豊島区立　南池袋小　学校

評価対象者数　（人）			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
323	105	30	8

領域	豊島区教育ビジョン2019 基本方針等	評価番号	評価項目	年間評価 児童・生徒 4	3	2	1	保護者 4	3	2	1	0	地域 4	3	2	1	0	保＋地 肯定的回答率	教職員 4	3	2	1	自己評価概要	学校関係者による評価 学校関係者評価の意見	標語	次年度に向けた改善策
0	教育活動全体の満足度	－	今年度の学校の教育活動について、全体的に満足している。◇アフターコロナの教育活動（安全・安心な学校づくり）					35	58	10	0	1	3	3	0	0	2	88.4%	5	25	0	0	教育活動全体の満足度は昨年度より約7%減少。回答数の減少も影響していると考えられるが、変化に対応していく新しい取組についても理解を得られ得るよう努力していく必要がある。	PTA本部では、教育活動全体への否定的な意見は出ていない。地域と関わる残す行事は各学年に確実に申し送りしてほしい。	A	学校評価だけではなく、土曜公開や学校行事での自由意見でいただいたご意見については、今後の対応策をしっかり回答し、公開していく。ご意見が学校運営に反映していることを周知していく。
Ⅰ	就学前から小学校・中学校への円滑な接続	Ⅰ－１	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている。					23	37	7	1	37	1	5	1	0	0	58.9%	5	19	6	0	昨年度と変わらず、約35%前後の保護者が「分からない」と回答していた。保幼小中で連携を図って教育活動を実施していることが、保護者には十分に伝わっていない。	教師間の連携が増えていると伺っている。連携活動に「小中連携行事」タイトルを付けて発信してはどうか。	A	今年度末から実際に保幼小の連携活動が実施されているので、HPや学校だよりで、タイトルをつけながら積極的に発信をしていく。また、保護者も参観できる行事でも連携が見られる活動を取り入れていく。
Ⅱ	確かな学力の育成	Ⅱ－１	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。	児童・生徒を対象としたアンケート集計表をご参照ください。				30	59	11	0	5	4	2	0	0	0	85.6%	7	22	1	0	教師が、ICT機器やタブレットを活用した授業を実施することで、児童がタブレット端末を用いて学習する機会が増えていたり、そのことからすすんで学習に取り組んだりしていることが分かる。	本校のＩＣＴ活用は進んでいると感じている。活用だけが全てではないが、ＩＣＴ活用基準を明確にするとよいのではないか。	A	学年やクラスによってＩＣＴ機器やタブレット端末の活用機会の差が出ないよう教職員で共通理解を図り、タブレット端末を日常的に使用していく。また、昨年度作成した「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の習慣化、情報モラルについて保護者と共有していく。
		Ⅱ－２	学校は、ＩＣＴ機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。					27	60	14	0	4	4	3	0	0	0	83.9%	9	18	3	0				
Ⅲ	豊かな心の育成	Ⅲ－１	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をとおして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりを推進している。					28	59	5	1	12	5	2	1	0	0	83.2%	4	20	6	0	道徳や学活、特別活動などを通して、児童同士で話し合い、協力し合う中で、お互いのよさに気付いたり、認め合ったりすることができている。	学校での姿、学童での姿は異なるものの異学年間の交流や関わりを通して、児童は互いのよさを尊重し合う大切さを学んでいると捉えている。今後も学校と学童で連携しながら豊かな心を育んでいく。	B	学校活動全般において、児童がお互いのよさに気付いたり、認め合ったりすることができる機会を設けたり、環境を整えたりする。また、ふれあい月間、人権教育週間や人権の花の取組を活用しながら、児童の自尊感情を高められるよう褒めて伸ばす指導をする。
		Ⅲ－２	学校は、生命を大切にする態度や思いやり、優しい心を育てている。					39	50	7	2	7	5	2	1	0	0	85.0%	5	19	6	0				
Ⅳ	健やかな体の育成	Ⅳ－１	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。					38	40	12	0	15	4	3	0	0	0	75.9%	4	21	5	0	今年度から4年生以上は体育専科教員が授業を担当し、より系統的に体育指導を行っている成果が表れてきている。マラソン旬間や縄跳び旬間などの実施でも、子どもたちの意識を高めている。また、給食便りや献立表によるお知らせと、日々の給食指導で、食育に対する取組への理解も進んできている。	体育の授業参観時には、児童が互いに認め合いながらチームワークを高めている様子がうかがえた。今後も授業を中心に体力向上を図っていってほしい。	A	児童の発達段階を踏まえた系統的な体育指導を行う中で、実動時間を確保するとともに、休み時間の外遊びや体育館遊びを通して体を動かすことを勧める。また、栄養士と連携して、日々の給食指導を行い、食に関する授業の実施を図り、各家庭にはお便りや配信を通して「食育」について発信していく。
		Ⅳ－２	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。					51	44	5	0	5	4	4	0	0	0	91.2%	17	12	1	0				
Ⅴ	一人一人を大切にする教育の推進	Ⅴ－１	学校は、いじめ防止等（未然防止、早期発見、早期対応）に学校全体で組織的に対応している。					24	47	12	1	21	3	5	0	0	0	69.9%	9	20	1	0	児童一人一人に寄り添った指導をしていることや、いじめ防止等に組織的に対応していることが概ね保護者に伝わっている。特別支援学級や特別支援教室などで、児童の発達課題に対して支援をしていることについても、周知が図られている。	まずは、先生方が学級、学年、全体のことを理解しているということを知ってもらうことが大切。０の「分からない」は該当していない場合は体制や対応は分からないため、肯定的な「分からない」だと捉えられる。	B	いじめ防止・不登校対策委員会を開催していることや、児童に対する心のアンケートを定期的に実施し、組織的に早期発見・早期対応を徹底していることを、学校だよりや学校HPなどを通じて発信していく。また、普段の児童の様子を教職員が丁寧に把握し取り組んでいることを、クラスルームでの連絡や個別面談などで保護者に伝え、信頼関係を築いていく。特別支援学級・教室に関する情報も、特別支援教育コーディネーターを中心に発信し、理解を得ていく。
		Ⅴ－２	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。					22	45	12	2	24	4	4	0	0	0	66.4%	10	19	1	0				
		Ⅴ－３	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。					29	37	7	0	32	2	6	0	0	0	65.5%	11	19	0	0				
Ⅵ	教師力の向上と魅力ある学校づくり	Ⅵ－１	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。					26	58	15	1	5	4	2	1	0	0	80.4%	2	16	11	1	土曜公開や行事を通じて、子供たちが落ち着いて学習している様子が伝わっており、一定の理解を得られている。また、保護者や地域の方からの意見や要望を受け、生活指導や授業改善に取り組んでいることの理解も得られている。	地域からの情報に学校が迅速に対応してくれていることが大きい。保護者評価と児童アンケートを勘案し、より考察する必要がある。	B	保護者や地域からの意見を吸い上げ、教育活動の見直しを図ることを継続する。また、より連携を充実させることができるように、教育活動に関する意見やそれに対する回答も公開していく。
		Ⅵ－２	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。					31	52	6	1	15	6	2	0	0	0	80.5%	12	16	2	0				
Ⅶ	家庭・地域との連携	Ⅶ－１	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。					49	51	4	0	1	7	1	0	0	0	95.6%	20	10	0	0	学校だより等のペーパーレス化を進め、タブレットを活用した手紙の配信に切り替えている成果が出ている。また、各学級のタブレット使用の掲示版の活用により、保護者との情報共有が迅速にできている。	タブレットを活用した情報発信により、保護者からの協力が早くなったと感じている。ペーパーレス化は今後も積極的に推進してほしい。	A	交通指導員や民生児童委員、SSW（スクールソーシャルワーカー）との情報共有を図るとともに、多くの大人で児童を見守り育てていく体制を整える。また、保護者や地域の方々をゲストティーチャーとして招き、積極的に教育活動に参加してもらう。
		Ⅶ－２	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。					38	55	10	0	2	5	2	0	0	0	89.3%	15	15	0	0				
Ⅷ	特色ある教育活動	Ⅷ－１	学校は、様々な教育活動を工夫して実施しようとしている。（みないけ子ども祭り、親子レク、学校公開、地域との連携）					46	55	3	0	1	5	3	0	0	0	96.5%	15	15	0	0	行事に対して、学校が最大限の努力を続けていることを、保護者は十分理解し、高く評価している。その一方で、リーダー・イン・ミーなどの特色ある教育活動が、保護者に伝わっていない。	肯定的な回答９６％以上は素晴らしい。今後も本校の特色を生かした教育活動を企画してほしい。	A	児童の実態に即して学校行事等の在り方を検討し、工夫をしていく。また、日常の教育活動を家庭と連携しながら充実させられるように、HP等で積極的に発信していく。
Ⅸ	働き方改革	Ⅸ－１	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を意識した業務分担等により、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。																4	16	9	1	校務のＤＸ化（タブレットの活用）を実施したことで、時間と場所を選ばずに仕事を進められている。その一方で、業務分担が上手く進んでおらず、仕事の負担を感じている教職員がいることが分かる。	働き方改革が進んでいることが素晴らしい。家庭、地域と役割分担をしていく方向で進めていきたい。	A	一人一人の仕事の負担を減らすために、校務分掌の細分化を進めていくとともに、役割分担の明確化を図っていく。

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。　A　評価は妥当である　　B　評価はおおむね妥当である　　C　評価は妥当ではない　　D　評価方法を見直す必要がある